

トイレピカピ化 大作戦！

～プロの技を取り入れたトイレそうじシステムの実践～

東御市立和小学校 両角千彬

I はじめに



保健主事としての自負：「学校中のトイレは私にかかっている！」 現実：トイレを巡視し個別指導することの限界
『教師が見ていなくてもそうじのできる児童が増えれば、きれいになるはず』⇒**トイレそうじの仕組みを作りたい**

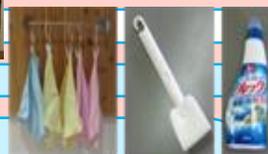
II 内容

《実践の手順》 …保健主事が行ったこと …職員や全校へ発信したこと

※PDCAサイクル

R.P.P
(調査・企画・準備)

- 1 異業種研修(キャリアアップ研修Ⅱの機会を活用)・・・サニクリーン甲信越にて
- 2 学校での取り入れ方の考案・・・汚れ落ちが実感できる手順/衛生面・コスト面での管理のしやすさ
- 3 職員会で提案・・・研修報告と提案を5分間で周知
- 4 物品の購入・配備・・・事務員さんと協力
- 5 全校への周知・運用①・・・Zoomにて全校へ斉配信+保健室前の掲示板



3色クロス 短いブラシ 洗剤

6 アンケート

【児童】

- ① そうじの仕方が変わったのを知っている
- ② 新しい道具は使いやすい
- ③ 新しい方法はそうじしやすい
- ④ 一学期に比べてトイレはきれいになったと感じる



⑤ どうしたら、学校のトイレがもっとピカピカになるか

- ・トイレの床に尿がついているところをぞうきんで拭いても取れないので、それを落とせる道具が欲しい。
- ・洗剤を使う日数をもっと増やすといいと思います。 ・みんなできれいに使って、トイレそうじを嫌がらないこと。

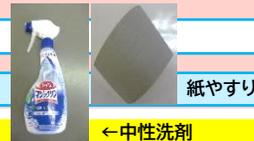
【先生方】

- ① 児童の意識や行動は変わったか
- ② 一学期と比べ、トイレはきれいになった/なっていないと感じる理由と、改善点



- ・トイレそうじを見に行くと丁寧にそうじする様子が見られるから。
- ・日によってやる場所が決まっていたので、やらない日は汚いままになってしまっていた。
- ・トイレそうじの人数を増やすことにした。
- ・担当が声をかけ忘れると、マニュアルにない床そうじが抜けてしまう。ぜひ入れて欲しい。
- ・そうじ分担の確認を担当が行い、よくやっているところはほめたり、ここが汚れているから、今日のそうじでお願い・・・など、担当はいつも見ているよということを感じ取らせたい。

- 7 リニューアル案検討・・・毎回使える中性洗剤/紙やすりの導入/床そうじは毎日
- 8 リニューアルの周知・運用②・・・動画配信にて全校へ周知



←中性洗剤

紙やすり

A
(改善)

C
(評価)

D
(実施)

P
(計画)

III 考察

【成果】新しいトイレそうじシステムは学校全体に定着した。

【マネジメントの観点から】PDCAサイクルのマネジメント過程を経て展開できたことが、新しい仕組みが根付いた要因。

【課題】そうじの方法を知っていることが、必ずしも行動に結びつくわけではない。教師側からの支援の工夫が課題。

IV おわりに



効果的で効率的なトイレそうじの仕組み(ハード面)が整えられた⇒「私にも組織を動かせた！」と大きな自信に
今後に向けて：子ども達が意欲的に取り組めるような教師の支援や関わり(ソフト面)の工夫を続け、発信する
⇒どの子も取り組めるトイレそうじときれいなトイレを！